第10号
平成14年7月10日

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

1.「さらに」新しい、開かれた大学へ――オープン・クラス

かねてより話題となっております、富山大学の大幅な授業開放の取り組み「オープン・クラス」も、大学教育委員会のお仕事に携わっておられる諸先生方のおかげで着実に進みつつあります。

現在、授業を担当いただいている各先生方に対して公開可能なものをおはかりいただき、集約が進みつつあります。また、オープン・クラスの『実施要項』および『受講生募集要項』等の事務整備も検討が重ねられており、後学期の実施にむけて、いよいよ本格化してきました。

前期の公開授業としても、23の授業科目が開講されています。こちらは、現行の規定により「コマ数の半分以下」の開講という制限がありますが、それでも62人（！）というかなりの受講者のみなさまに参加していただくことができました。市民の学習期待の高さがうかがえます。「部分的な開講」という制約によって、担当の先生方にはご面倒をおかけしましたが、後期には改善できればと考えております。



熱心な受講態度、知識へのどん欲さ――たくましい市民の「学生」の姿に、後期からのオープン・クラスへの期待感が高まります。

欧米では、学生の過半数が25歳以上、さらにその25歳以上の学生のうちの半分（全体の25%程度）が35歳以上という大学があるといわれます。いろいろと条件が違うところがあるとはいえ、日本の高等教育の伝統と比べれば驚くべき多様さを持っているといわねばなりません。オープン・クラスは正規学生として市民を受け入れる制度ではないとはいえ、18歳人口の約半数が大学短大に進学し、とめどもない少子高齢化社会の進展と長期経済不況の中にあって、新しい、開かれた大学像を模索する上で、一般市民の受講生たちが我々のよりよいパートナーとなることは間違いなさそうです。

2．14年度の公開講座・公開授業が元気よくスタート

本年度の公開講座も、５月10日開講の『近代フランス音楽におけるピアノ作品』を皮切りに、無事開講の運びとなりました。今年度は、公開講座、体験講座あわせて43講座（前期25講座、後期18講座）を市民に提供できることになりました。

（前期）	後期
近代フランス音楽におけるピアノ作品	パソコン教室Windows入門
自然の中で学ぼう～野外教育施設活用講座～	高齢者のための情報機器を考える
フランス語初級Ⅰ	とことん子供を知ろう
入門中国語	思春期の問題を考える
陶芸（オブジェ制作）	睡眠の科学
遊べ遊べ大人たち先生たち	山歩きの楽しみ（その２）
初級英会話	中級英会話
入門ドイツ語	フランス語初級Ⅱ
山歩きの楽しみ（その１）	シニアから始めるIT講座（Ⅰ）
日常の音と映像を読み解く	初級中国語
日本の言語文化からみた越中	食文化から見たヨーロッパ中世
政治・経済の変動と法	数理と情報の世界
ＩＴ講座（Ⅰ）	前近代東アジアの言語と歴史
ＩＴ講座（Ⅱ）	究極の干し柿を作ろう
ＩＴ講座（Ⅲ）	究極のおかきを作ろう
ＩＴ講座（Ⅳ）	シニアから始めるIT講座（Ⅱ）
ＩＴ講座（Ⅴ）	シニアから始めるIT講座（Ⅲ）
教師のための情報教育実践力養成講座	親子スキー教室
環境と人間活動	
シニアサッカー教室	
動きをとおして「からだ気づき」・「体ほぐし」	
ゴルフ（初級者）コース	
ジョギング・ランニングコース	
（体験講座）	
ITC World in Toyama（教育学部）	
考えるものづくり（工学部）	

現在、前期分の講座が順調に進み、あわせて後期分のＰＲを開始しようとしております。

ご協力いただきます先生方には、心より感謝いたします。



3．富山県中小企業家同友会『経営者大学』――地域振興を目指して



「若い社員とどう接するか、若い社員を先輩として指導する幹部をどう育てるか」という課題が重要なものとなっています。いま、企業だけでなく、学校や官公庁など、どの職場でも、「職業人養成・職場仲間づくり」が容易ではないと言われています。若い層を指導するにあたり、ポイントをつかんだやり方・工夫次第では、職場がいきいきとするものです。

このような現代的な課題について考え、豊かな職場づくりを目指したい――前年度末、そんなご相談を富山県中小企業家同友会からいただきました。センターでは、学内の若い世代の心の専門家、あるいは地域学の専門家の先生に依頼し、第１期『経営者大学』なる取り組みを開始いたしました。ご協力いただいた先生方は、中井精一先生（人文学部）、竹井史先生、稲垣応顕先生（ともに教育学部）、センターからは大石と仲嶺が参加いたしました。三先生には、お忙しい折にご協力いただき、ありがとうございました。

詳細についてはまたこの紙面を通じてご報告いたしますが、参加者のみなさまにはかなりの好評をいただいております！

第２期以後も、同友会のみなさまと協力して、地域振興の一助となる企画を考えたいと思っております。また、先生方のご理解とお力添えをお願いいたします。

4．新しいスタッフ――よろしくお願いします

去る平成14年５月11日付けで、生涯学習教育研究センターに人事異動がありましたのでお知らせいたします。新センター長には大石昂先生（前副センター長・教授）、新副センター長には神川康子先生（教育学部教授・併任）が選出されました。

両先生に今後の抱負をおうかがいしました――

● センター長就任にあたって

今、全国の国立大学は、「独立行政法人化」という課題を突きつけられ、再編・統合の模索を通して、そのあり方を根底から問い直されています。それはとりわけ地方の国立大学に厳しく、わが富山大学も例外ではありません。「疾風怒濤時代」とは、青年期を形容する言葉ですが、その意味では日本の高等教育自体がいまだ成熟の域に達していないということなのでしょうか。

しかしながら、このような問い直しの中で明らかにされてきたことのひとつは、地方の国立大学が、これまで以上に地域との連携を深めるという方向付けではないでしょうか。地域の持つ課題に応える優れた研究、地域をリードする優秀な人材の供給、大学の持つ知的資源の地域開放、そして地域との知的交流、地方大学は今これらの課題の実現に向けて真剣な取り組み始めつつあります。地方大学には、まさに Global であると同時に Local であることが求められているのです。

このような時代に設立7年目を迎えた大学開放の窓口である富山大学生涯学習教育研究センターの役割がきわめて重要なものとなってきていることは言うまでもありません。新センター長として、全学のいっそうの理解を得ながら、大学開放・地域貢献の事業にこれまで以上に真剣に取り組んでいきたいと思います。



● 副センター長就任にあたって

5月13日（月）に大石センター長から副センター長の辞令をいただきました。私としましては、これまで公開講座、公開授業はもとより、公開講座専門委員や運営委員を経験させていただいたことを生かしながら、富山大学と地域を結ぶ重要な一部署のお手伝いをさせていただければと思い、意欲的に臨んでおります。また富山県の教育委員もさせていただいていますので、微力ですが富山県と富山大学の希望の持てる教育の連携についても考えながら、生涯学習教育研究センターの機能を最大限発揮していくアシストをさせていただきたいと思っています。どうか皆様からも積極的なご意見や、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

＊ ＊ ＊

両先生には、今後ともよろしくお願いいたします。なお、２年の任期をつとめられた宇井啓高先生（前センター長・教育学部教授・併任）には、お忙しいところ大学開放のお仕事にご尽力いただき、ありがとうございました。

＊ ＊ ＊

おかげさまで、センターニュース『生涯学習の窓』も10号をおとどけすることができました。今後とも、大学開放に関する富山大学の取り組み、あるいは他の大学の情報をお知らせしていきたいと思います。ご意見・ご感想などありましたら、気軽にお寄せ下さい。



e-mail：lifelong@life.toyama-u.ac.jp

URL：http://breeze.toyama-u.ac.jp/lifelong/LLL.htm

発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960